

(5) 衣類など日用品

近年、衣類などの製品では輸入が急増している。そこで、特に衣類等が輸入されてから、物流拠点を経て繁華街等の小売店まで運ばれる流れを示す。

◆ 衣類の流れの概要

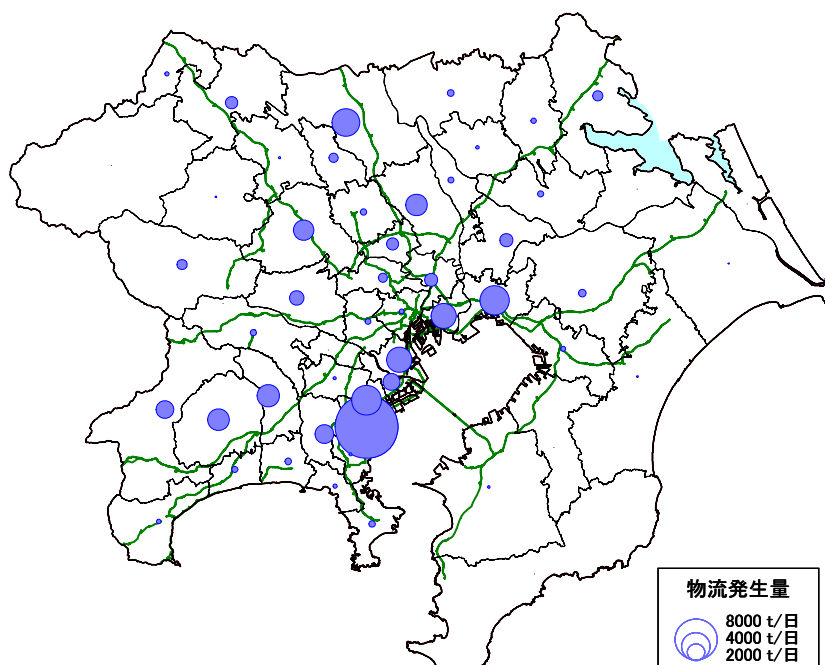
衣類は東京港、横浜港で大量に輸入され、そこから、主に国道 357 号や東京港臨港道路などを経由して、江東、江戸川、市川など港湾エリアに立地する比較的大型の物流拠点に輸送されることが多い。

これらの地域から、日本橋、墨田、台東などに集積する衣類関係の卸売事業者や、中小の倉庫事業者、運輸事業者などを経由し、都内や近隣の繁華街を中心に各小売店に輸送される。

衣類の輸送では、途中の卸売業者などにより、値札貼りや包装などの流通加工を行ったうえで小売店に輸送されることが多い。また、小売店への輸送では、多頻度・小口の配送や、返品に伴う輸送も比較的多い。



図 衣類の輸入金額の推移



物流施設からの施設間流動ベースの発生量を図化
衣類等のほか、医薬品、化粧品等の各種日用品が含まれる
資料 東京都市圏交通計画協議会「第4回東京都市圏物資流動調査」
(平成 15 年度)データより東京都で集計・加工

図 衣類など日用品の地域別物流発生量

◆ 衣類の流れにおける問題点

輸送に伴い細かい流通加工が必要とされることから、これらへの対応の難しさや、小売店などとの間での多頻度・小口の輸送などについての問題が多く挙げられた。

・港湾エリアの道路混雑

東京港や横浜港から江戸川、江東、市川などの比較的大型の物流拠点へ輸送する際に、一般道路では青海地区から国道357号を経由することが多いが、輸送経路が限られていることから、国道357号など主な経路の混雑が激しいため、輸送が非効率になっている。

・流通加工など新たなニーズへの対応の難しさ

衣類の輸送では、物流拠点における値札付けなど流通加工のニーズが高いが、中小企業ではこれらの要請への対応が難しい場合が多い。

・多数の納品車両による繁華街の混雑

製造・卸・小売間の連携の遅れなどから、小売店への多頻度・小口の配送や返品に伴う輸送が多く、輸送コストが割高になってしまうとともに、繁華街での混雑を招いている。



都内では各地に衣類関係の卸売業が立地しているが、流れを模式的に示すうえで、代表的な卸売業集積地である上記2地域を例示的に示している。

図 衣類の流れにおける問題点